



図書館が新しくなる！？

別れと出会いの春がやって来ました。図書館はこの春で開館して、満 5 歳となりました。人にたどるならやっと幼稚園を卒園する年になったというところでしょうか。平成 11 年度は図書館システムの節目にあたり、コンピュータが新機種になり、図書館管理ソフトもバージョンアップします。

本号の主な項目：図書委員長の挨拶、分類別蔵書数、書評、新システムについて、雑誌講読中止のお知らせ、エッセイ、嘱託員の紹介、平成 10 年度の利用状況、寄贈図書報告など

平成 10 年度図書委員会を振り返って

平成 10 年度は、前年度委員会からの引継ぎを受け、私事としては今迄の利用者の立場から改めて図書館について考える年となった。図書館について全国的に見ると本年度全国図書館会議における主要なテーマは協力ネットワークの取組み、電子図書館の課題と展望などであり、短大図書館部門では個性的な図書館とするための資料（図書）収集・保存の重要性、利用者本意の図書館の目標を踏まえた開館閉館の時間、学生の利用などについての討議がなされている。これらの状況からみて、本学の図書委員会は開館以来 5 年、図書購入や地域への開放などに高い水準でその役割を推し進めていることが引き継がれた思いである。図書館長のもとに委員会で行った平成 10 年度を振り返ってみると以下のようにであった。まず所蔵図書について、看護系短大として個性ある図書館とするために所蔵図書を分類し確認した。本年度末の蔵書総数は

委員長 田中キミ子

24134 冊(3 月 12 日現在)であった。この約半数は専門書であり、そのうち医学系が 74%、看護学系が 26% (図-1) を占めていた。看護学系のうち最も多いのは成人看護学系で 523 冊、少ないのは精神看護学系で 147 冊 (図-2) であった。従来の購入図書の選書は教員、リクエスト受付箱の希望による購入であり予算別額は各教員均一であった。看護系に見られる科目蔵書のばらつきは、担当教員数の差によるものとも考えられ、委員会では従来の選書方法に加えて科目単位枠を設け、各科目の意向を入れながら委員が選書に加わってはどうかなどの検討を行っている。

その他、図書館管理システムの検討や学外者に対する図書館利用内規の修正、学生の同時貸出冊数の増冊などを行った。委員会業務は次年度継続事項が多くなりますがさらに皆様のご協力をお願い致します。

図1 平成10年度専門書所蔵数

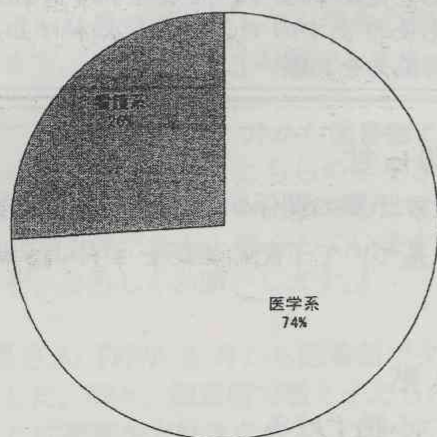
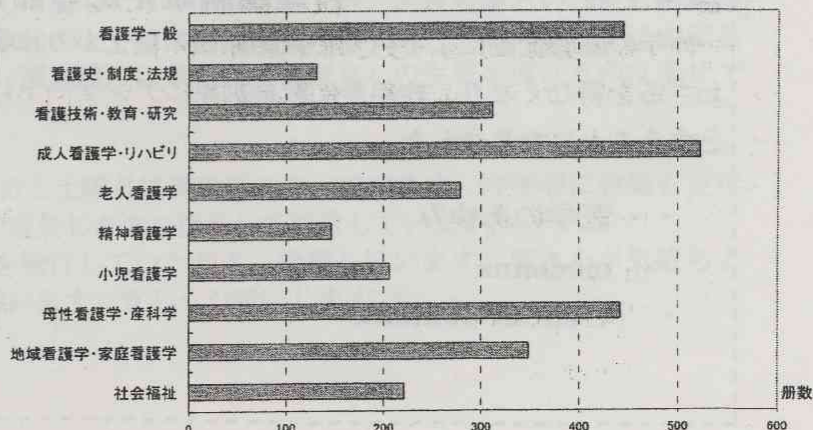


図2 看護系所蔵図書の内訳



『ライフサポート：最前線に立つ3人のナース』

秋山 智弥

スザンヌ・ゴードン著 日本看護協会出版会 1998

「私たちは、『病院』、『薬』、『医療』といったような言葉を聞くと、テクノロジーや科学を思い浮かべる。人工呼吸器、手術、薬...といったものが医療システムの中であって私たちの生命を支えている、つまりこれらがライフサポートだと。しかし、医療システムには他にも同じくらい大切なライフサポートがある。」(第1章「ケアのタペストリー」より)

一昨年、アメリカで出版されるや否や、医療の世界のみならず一般読者層の間でも反響を呼んだ本書が、昨年の夏日本でも翻訳出版され、看護界では一大ブームと言えるほどの盛り上がりを見せた。

本書がそれほどまでに絶賛されたのは、ジャーナリストである著者が絶妙な文章表現力と構成力を駆使して、目には見え難い看護の本質的な価値を見事に描き出したからにほかならない。看護婦でもなければ医療従事者でもない著者がそこに描いたものは、学者が語る「あるべき看護」の姿でも「あるべき医療」の姿でもない。彼女が、その行間にさえ余すことなく描き出したものは、実在する3人の優れた看護婦達の「ありのままの看護

実践」であり、患者の立場、あるいはいつ患者になるともわからぬアメリカ市民の立場から見つめた看護の真の価値と、その価値を知るすべもなく市場経済に翻弄され苦悩するアメリカ医療の現実である。

看護には何一つ単純な仕事などない。薬を飲ませたり、お風呂に入れたり、ベッドで使用する便器を片づけたり...一見単純に見られかねないこれら一つ一つのケアは、看護婦にとってはどれも患者を把握するために重要なケアの意図(糸)であり、看護は「数え切れないほどの糸を織り上げて作り上げられるケアのタペストリー」だということ。

科学やテクノロジーと同じくらい大切なライフサポートとしての看護。この成しえがたく素晴らしい仕事を選び、これから臨床にすすむ若い学生たちには、今この時期に是非とも本書に触れて欲しいと思う。前おきはあとにして、第1章からいきなり読んでいけばいい。そしてまた看護の経験を積む中で、ケアのタペストリーを織り上げる巧みな手さばきを培う中で、再び読み返して欲しいと願う。

図書館システムの更新について

図書館のシステムは平成11年度が更新年度にあたり、現在貸出や所蔵検索に使用しているコンピュータを新機種へと入れ替えることになりました。それに伴い、図書館管理ソフト『情報館』もバージョンアップすることになりました。ではシステムが更新されることで具体的に何が変るのでしょうか？

第一に図書館所蔵検索用端末が1→2台に増え、内1台はCD-ROMも利用できるようになります。

第二に今までDOS版であった『情報館』

がWindows版になるため所蔵検索の方法や操作性が分かりやすく使い易いものになります。

第三に医学文献の検索ソフトである「医学中央雑誌CD-ROM」用サーバーを導入し館外からのオンライン検索を可能にします。また学生もCD-ROMを使って文献検索が行えます。まだ他にも新サービスを行いたいと考えています。

ただし、実際の稼動までには少し時間がかかると思われます。やむを得ず休館する場合もありますのでご迷惑をおかけしますが、御協力をお願いします。

急告！！

雑誌講読中止のお知らせ

昨年の為替変動による円安と雑誌原価の値上がりにより予算の関係から、購読雑誌の削減を行わざるを得なくなり、昨年夏に教員対象にアンケートに基づいて下記の雑誌を4月より購読中止とすることになりました。

- ・ 医学のあゆみ
- ・ medicina
- ・ Current Contents

- ・ 黙
- ・ 小説すばる
- ・ 歴史と旅

私 と 本

♪♪ 本の活用 ♪♪

970042 松 香

私は、図書館をよく利用させてもらっている。豊富な本や雑誌、視聴覚資料などを活用し、毎日の学習に役立てている。また採光にめぐまれた図書館は、落ち着いた学習環境が得られるので、集中して自己学習に取り組めるのである。

実際に私は、できるだけ先生方が講義中に紹介する参考文献について、目を通すようにしている。そうすることで、講義内容に関連する様々な知識を得ることができるのである。また、共通のジャンルとして分類された本や雑誌でも読

んでみるとやはりいくつか違う箇所があることを発見した。同じ言葉や文章でも表現の仕方によって読者に与える印象は変化するのである。それぞれの本や雑誌にある個性というものを見極め、より上手く活用することが私の目標であり、これからの課題でもある。

残り少ないこの在学期間中により多くの本を、活用しながら学習を進め、知識を深めていきたいと思う。

〆 〆 私と本 〆 〆

980062 函 [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]

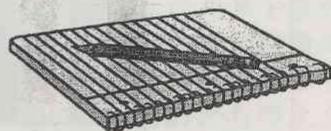
私は今まで、ずっと趣味の欄には読書と書き続けてきた。しかし、毎日本を読むわけではないし、好きな作家がいるわけでもない。ただ、本を読むのが好きなのである。

今では、夏休みや冬休みなど長期の休みを利用してまとめて本を読んでいる。本の種類にもこだわらずに、ただ読みたいと思える本を読むだけである。

読書は人によっていろんな楽しみ方があると思うが、私は一度読んだ本を繰り返し読むようにしている。そうすると、一度読んだだけでは

わからなかった新しい発見があったり、前とは違った受け止め方ができたりするのである。

本を読み始めるといつも「自分の生き方を導いてくれるような一冊に出会うかどうかはその人の一生を左右する」という高校の校長先生の言葉を思い出す。まだ、そんな一冊に出会うことができない私は、そんな一冊を求めて本を読みつけていくのである。



～新嘱託員の自己紹介～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

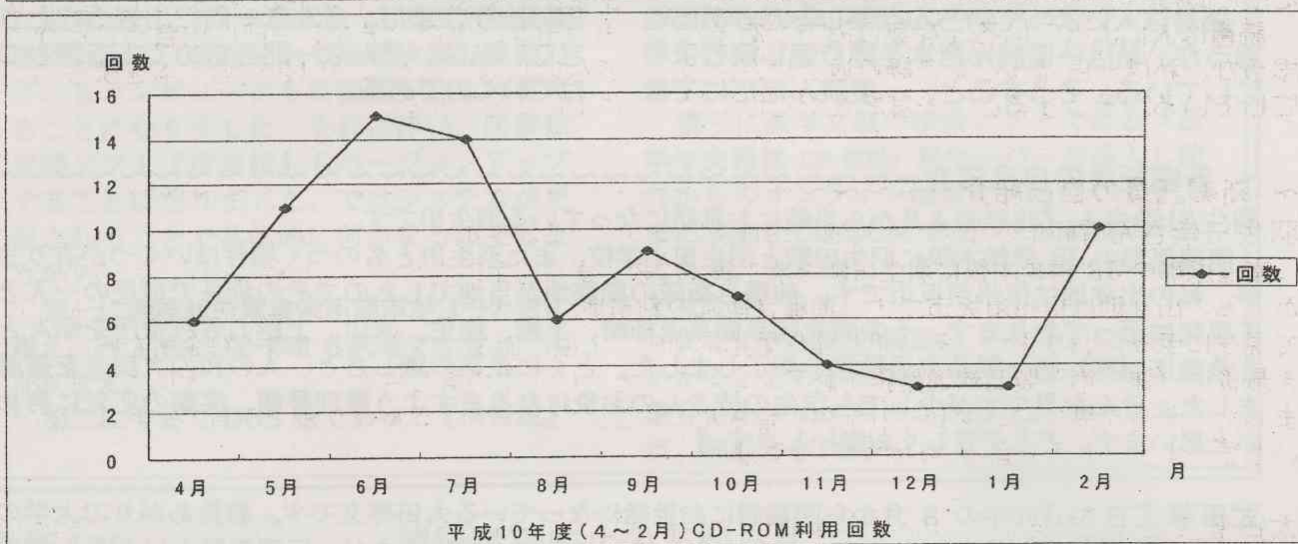
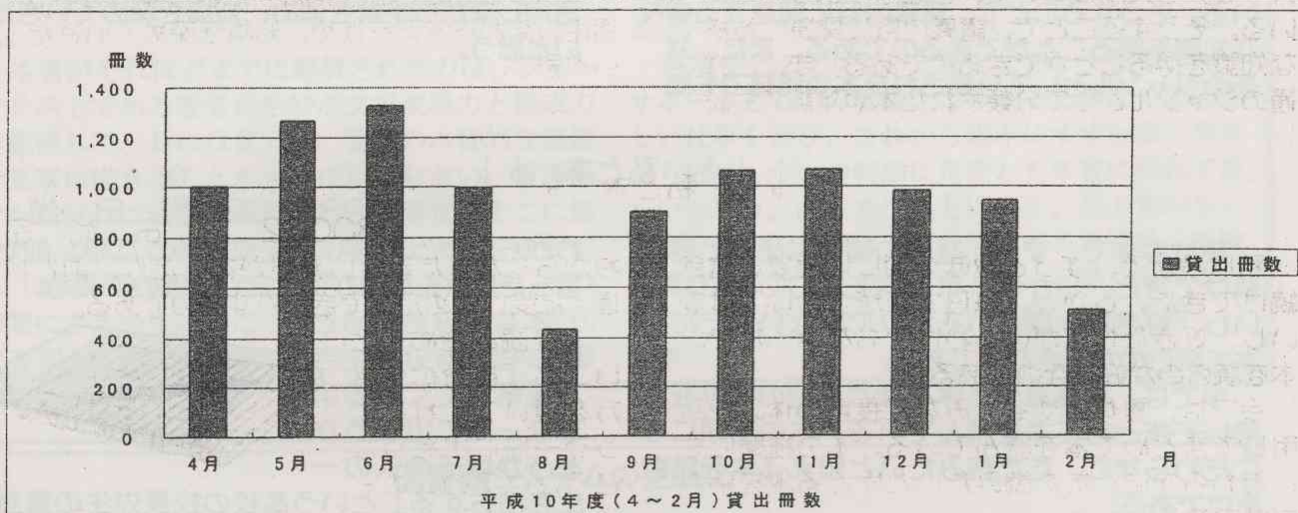
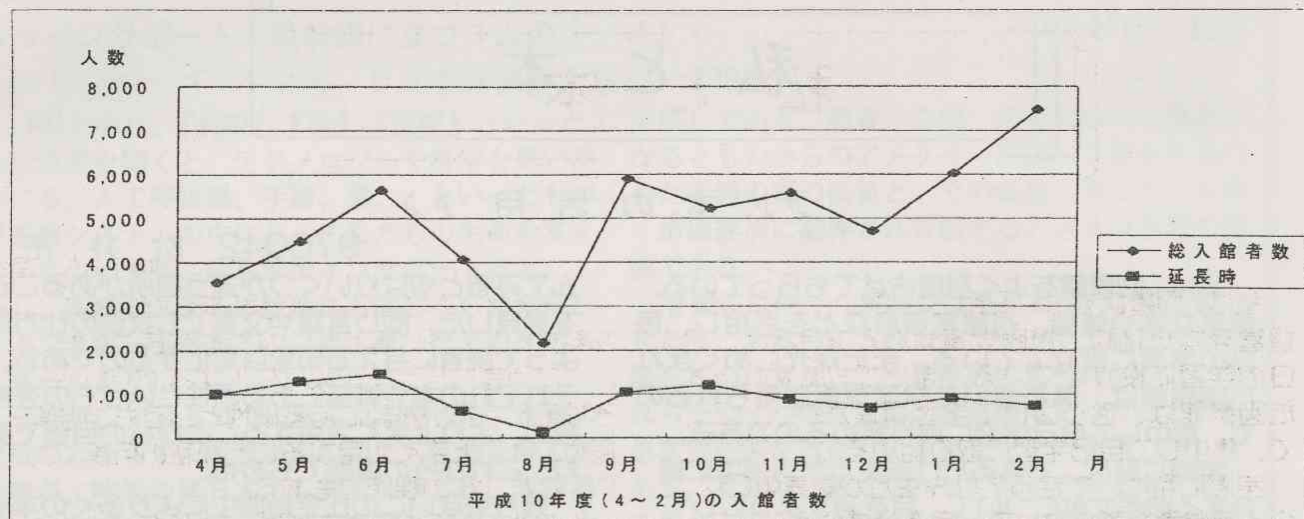
羽生田崇さん『昨年の4月から当館にお世話になっている羽生田です。』

南蒲原郡のJR信越本線に羽生田駅と羽生田小学校、また羽生田と名のつく物件はいくつか有りますが、私の出身地は信州須坂市です。前職自衛隊の勤務地が当地でしたのでその延長で市民の一人として現在に至っております。その間北陸自動車道柿崎、上越、能生、米山、上越の各料金所を転々と歩き最後に（株）第一製品流通勤務を終了しました。とくに企業の厳しさと、人の和の大切さを痛感しました。そんな男ですが少しでも学生の皆さんのお役になるますよう整理整頓、笑顔の対応に努めたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。』

太田尊文さん『昨年の 8 月から図書館にお世話になっている太田尊文です。教員あがりで大学の近くの鴨島に住んでいます。こちらの学生さんに接してみての感想ですが、医療看護という最も価値ある仕事を目指しているせいか、皆さんは意欲的によく勉学に励んでいますよ。その真摯な姿はすばらしくいい大学生達だなあと感心しています。図書館の仕事を通して皆さんの生気を頂けるのは幸せです。どうぞ、よろしくお願いします。』

秦野忠男さん『昨年 8 月から図書館で夕方と土曜日に御世話になっています。昨年春に教職を定年退職しました。時々、図書館で教え子たちの成長した姿を拝見して感激しています。』

もともと読書が大好きなので、カードを発行していただき、愛読しています。皆さんが気持ちよく、利用していただけるように努めたいと思います。宜しくお願いします。』



寄贈図書一覧 (平成10年10月～平成11年3月)

下記の方々からご寄贈いただきました。ありがとうございました(敬称・書名略)。

富坂康平、寺本希久枝(学生)、新潟工業短期大学、上越教育大学、新潟大学附属図書館旭町分館、前川幸雄(非常勤講師)、生産技術、電力中央研究所、高田工事事務所、内閣総理大臣官房広報室、パーフェクトハーモニー、科学技術情報研究会、日本模試センター、河川環境管理財団、新潟大学教育開発研究センター、高橋由美、菊池康也、新潟県議会、松田恵(学生)、愛媛県立医療技術短期大学図書館

以上6氏、14機関から図書36冊雑誌27冊を恵贈

編集後記

システムの更新などで、図書館はこれからさらに利用しやすくなっていくでしょう。蔵書やサービスのより充実した図書館を目指して、皆さんの意見もどんどんお寄せ下さい。(I)

tosyo@niigata-cn.ac.jp